



表彰制度あります！  
ぜひご投稿ください！

## 環境探究学研究会第二回定例大会の開催について

COVID-19 の影響を受けまして、昨年の第一回定例大会は急遽 WEB 開催へと変更になりました。第二回定例大会も引き続き、WEB 上での開催とすることといたしました。コロナ禍で教育現場でも様々な制限を受けてまいりましたが、子どもたちの探究心を伸ばす機会を逸することがないよう、先生方や研究者の方々のお力で、本大会を成功させられればと思います。

探究活動は、成果だけでなく、周りの方が子どもたちの研究活動に取り組む過程を見守り、導くことが大切です。大会まで 4 か月ほどですので、これからテーマを決めて取り組み始めることも可能です。ぜひ、この機会に大会発表を目標に定め、探究活動を行っていただければと思います。もれなくの**表彰制度**もございます。子どもたちの励みになるとともに、目に見える成果として**業績報告等にもご記載頂けます**。

また、研究者の方々におかれましても、問い合わせ等ありましたらご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

**2021年2月28日(日)**までに「**①要旨の投稿**」・「**②発表物の提出**」・「**③参加登録**」をお済ませください。

### ① 参加登録

開会式、基調講演、  
懇親会（「探究ちゃんねる」= ずーむ飲み・こどもはジュース）、  
表彰式、閉会式を ZOOM で行います。  
大会前にアドレスを配信いたします。



<https://forms.gle/bMoZyGS13mUZWpi78>

### ② 要旨のご提出

A4 サイズで 1 枚程度（1000 文字程度）

投稿料について

会員：無料

非会員：三千円

※小中高生は会費無料です。小中高生の入会には顧問の先生経由で保護者の方にも同意を得て下さるようお願いいたします。



<https://forms.gle/A1fWPaVC8Sjbn6DN8>

### ③ 発表物のご提出

メール添付にて発表物を事務局までお送りください。

※メール添付がうまくいかない場合は、データ便（[HTTPS://WWW.DATADE LIVER.NET/](https://www.datade.liver.net/)）等をご利用下さい。

メール: [office@kantanken.met](mailto:office@kantanken.met)

①～③の〆切 **2021年3月10日(水)**

## 詳細

(1) 発表物について、以下の2つからお選びください。

**パワーポイントに音声を録音したもの**（作成時のファイル形式は[.PPTX]）を、スライドショー形式（拡張子が[.PPSX]）で保存したもの。

メリット：スライド 1 枚 1 枚に音声を入れることができます。何度も撮り直しが可能で、自分の発表を客観的に捉えることができ、編集の過程で練習を重ねながら、よりよい成果物を作り上げることができます。

**ポスター**（サイズは任意）

メリット：大会参加者が指定のサイトで、大会期間中のみ閲覧します。コメントはチャット機能でやりとりができます（大会期間を過ぎるとチャットを閉じますので、やりとりをコピーしたものを後日、お送りいたします）。また、発表後は自分の学校に掲示することができます、有効活用できます。

(2) 視聴方法

後日、お知らせします大会専用のサイトで閲覧可能。

### (3) 大会期間（閲覧期間）

開会より1週間

### (4) 日程

#### 3/20（土）

（午前：ZOOMによる）

10：00 開会

10：10－10：40 基調講演 1（石田秀輝氏・東北大学名誉教授・環境探究学研究会会長）

「探究の原点を考える！」

10：40－11：10 基調講演 2（水野克己氏・地域地盤環境研究所）

「地盤環境工学における環境探究の紹介－粘土の体感科学プログラム授業を受けた“ある生徒のレポート”の紹介－」

11：10－11：40 基調講演 3（向雅生氏・福岡県立三池工業高等学校教諭）

「探究学習の PC×R サイクルと環境探究学習への応用」

午後～ 専用サイトにて、発表の視聴スタート。



（閲覧期間：開会より1週間）

17：00－18：00 意見交換会（「探究ちゃんねる」＝ずーむ飲み・こどもはジュース） 参加任意です。ぜひご参加ください！

**（審査について）** 小中高生を対象とした科学コンテストでは、そのほとんどで相対評価を用い、応募作品の中で優劣を決めて評価していますが、本大会では審査基準に絶対評価を取り入れます。明確な審査基準を作り、探究学習（研究）の到達度による評価を行うことにより、小中高生が自分の探究（研究）の到達度を知る目安となるばかりでなく、審査員の好みによる評価の解消や審査時間の削減による審査の効率化を図ることができます。前回の研究大会においては、「探究活動」の着手段階である“課題設定”や“研究計画”の経過を出来上がったポスター等の発表からはなかなか知ることができませんでした。「探究活動」の目的を鑑みて、研究に着手する経過も投稿時にアンケートをとらせていただくなど、探究活動の大切な部分を拝見させて頂きたいと思っております。

**（今年の審査員）** 石田秀輝（会長・東北大学名誉教授）、長濱和代（日本経済大学）、向 雅生（福岡県立三池工業高等学校）、加納靖之・五島朋子（東京大学地震研究所）、佐藤真太郎（兵庫教育大学連合大学院）ほか

#### （審査基準）

（1）特別優秀賞 … 大学における研究者レベル（審査員全員の評価が必要）

（2）優秀賞～奨励賞 … 一般的な小中高生の研究レベル（審査員の判断＋ループリックによる絶対評価）

（3）審査員特別賞…特に各審査員が評価・期待する研究

環境探究学研究会 会長賞（石田会長） アカデミックホープ賞（加納先生・五島先生） SDGs 賞（長濱先生）

GOOD！探究賞（向先生） 科学的リテラシー賞（佐藤先生）

参加校の児童・生徒、高校生のみなさまには、後日、賞状（連名＋各発表者分）と審査員等からのコメントシートをお渡しいたします。その後の、探究活動にぜひお役立ていただけます！



多くのご投稿をお待ち申し上げます！

